

授業科目	* 公衆栄養学Ⅱ					実務家教員担当科目	○
単位	2	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	坂田 郁子						
授業概要	公衆栄養学Ⅰ・Ⅱを通して、集団や地域の健康・栄養改善のために、保健・医療・福祉・介護分野のあらゆる対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成、実施、評価・フィードバックを総合的にマネジメントできる理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅱでは、実践活動に結び付けるため、各種サービス、プログラムの調整、人的資源などの社会的資源の活用、栄養情報やコミュニケーションの管理の仕組み等について解説する。 本科目は実務家教員が担当し、行政における栄養管理の実際も含め概説する。						
授業形態	対面授業			授業方法	アクティブラーニング（グループワーク）		

## 学生が達成すべき行動目標

学生の達成度別行動目標	
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆栄養マネジメントの概念とプロセスを理解し、説明することができる。 (DP2-1)</li> <li>2. 公衆栄養アセスメントの目的と方法を理解し、公衆栄養プログラム作成方法を説明できる。 (DP3-1)</li> <li>3. 計画の適切な評価方法を提案することができる。(経過評価、影響評価、結果評価) (DP3-1)</li> <li>4. 集団の特性や諸問題を把握し、地域の状況とニーズに沿った公衆栄養プログラムを策定できる。 (DP3-1)</li> <li>5. 地域における連携やネットワークづくりの意義と方法について説明できる。 (DP5-1)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域集団の特性を把握する手法を理解し、説明することができる。</li> <li>2) 我が国の公衆栄養プログラムについて、PDCAサイクルに基づき説明することができる。</li> </ol>
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域集団の特性を分析・課題抽出の手法について説明がで、事例を用いた地域診断をすることができます。</li> <li>2) 我が国の公衆栄養プログラムについて、社会資源の活用を取り入れた事例紹介を行うことができ、評価方法について説明することができる。</li> </ol>

## 評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト	0	
レポート	30%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	10%	
レポート外の提出物	0	
その他	0	

## カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

第1回	テーマ：公衆栄養活動 栄養政策と関係法規を含め公衆栄養活動について復習する。
第2回	テーマ：公衆栄養マネジメント 地域診断と公衆栄養マネジメントの考え方および方法について解説する。
第3回	テーマ：公衆栄養アセスメント 公衆栄養アセスメントの目的と方法および質問調査の方法について解説する。
第4回	テーマ：公衆栄養プログラムの目標設定・計画 アセスメント結果から、短期・中期・長期目標を設定し、プログラムを計画する方法について解説する。
第5回	テーマ：公衆栄養プログラムの実施 効果的にプログラムを実施するために必要な社会資源や関係機関との連携について解説する。
第6回	テーマ：公衆栄養プログラムの評価 評価の種類・デザイン、評価方法について解説する。
第7回	テーマ：地域特性に対応したプログラムの展開1 地域の状況とニーズに沿った公衆栄養プログラムについて解説する。
第8回	テーマ：地域特性に対応したプログラムの展開2 在宅医療、介護支援（地域高齢者等配食事業の栄養管理に関するガイドライン含む）について解説する。
第9回	テーマ：地域特性に対応したプログラムの展開3 災害時における公衆栄養活動について解説する。
第10回	テーマ：食環境整備のためのプログラムの展開 食環境整備のための公衆栄養プログラムの展開について解説する。
第11回	テーマ：特性別プログラムの展開1 母子・学童・思春期の公衆栄養プログラムの実施について解説する。
第12回	テーマ：特性別プログラムの展開2 成人・高齢者・障がい者・生活習慣病ハイリスク者の公衆栄養プログラムの実施について解説する。
第13回	テーマ：公衆栄養活動事例検討 グループに分かれ対象にあった公衆栄養活動を検討する。
第14回	テーマ：公衆栄養活動事例検討 グループに分かれ対象にあった公衆栄養活動を検討する。
第15回	テーマ：公衆栄養活動事例発表 グループで話し合った公衆栄養活動を発表する。
テキスト	「公衆栄養学(2024年版)」酒井徹、由田克士編（医歯薬出版） 「管理栄養士・栄養士必携」公益社団法人日本栄養士会編（第一出版） ※テキストは、授業外学習（予習・復習）にも活用する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「日本人の食事摂取基準2025年版」（第一出版） 「管理栄養士・栄養士必携」（公益社団法人日本栄養士会編、第一出版） 「国民衛生の動向」
課題に対するフィード	復習及び課題・演習内容は授業中に指示する。 レポートはまとめて返却する。

学生へのメ ッセージ・ コメント	<p>公衆栄養活動は、公衆栄養学Ⅰで学んだ、健康増進法、地域保健法などの関連法規がベースとなつてるので、2年の公衆栄養学Ⅰの復習を行っておくこと。</p> <p>また、対象集団の地域特性を把握するためには、食物→栄養素→疾病の関連性を理解しておく必要がある。これまで学習した食品学関連科目、基礎栄養学、臨床関連科目等の復習を行っておくこと。</p> <p>公衆栄養学Ⅱは管理栄養士になるための基礎的な科目です。これまで学んできた公衆衛生学、公衆栄養学Ⅰを基礎にした実践的な内容です。日頃より、ニュース、新聞、地方自治体等のホームページ、広報誌などで居住地域の公衆栄養関係の行事等を調べ、地域における公衆栄養の実践活動に対する関心を養ってください。</p>
------------------------	---

